

全国国保地域医療学会の報告

院長 小原 眞

令和5年10月6日・7日に福井市にて第63回全国国保地域医療学会が開催されました。当院からもこの学会に参加し、2題の演題発表を行いましたので紹介致します。

- ・「当院における糖尿病患者の管理状況の検討」

総括院長 北村道彦

- ・「当院における医師事務作業補助者（クラーク）の活動を振り返る」

医師事務作業補助者 竹澤千尋

北村先生からは、令和3年の外来診療での糖尿病治療患者51症例を検討し、管理状況の検討・評価について発表しました。当院の患者層の特徴としては、やはり高齢者が多く（平均年齢76歳）、血糖コントロールに加え腎機能の厳重管理が要求され、比較的良好な結果となりました。今後も継続した管理が重要となります。

医師事務作業補助者の竹澤千尋さんからは、当院での活動内容について発表していただきました。カルテ入力業務や診断書作成・サマリー作成等の事務的な作業の他、応援医師・研修医への指導や各部門との連携作業など、活動は多岐に渡ります。また、当院に特徴的なものとして、救急患者に対する心肺蘇生の際の記録や時間管理を率先して行い、臨床現場の最前線での活躍があります。発表の後には、座長の先生や聴衆から多くの賛辞をいただき、本当に良い発表でした。

ここで、全国国保地域医療学会についてご紹介します。旧沢内村（現西和賀町）はかつて、「豪雪、貧困・多病・多死」という悪条件の中で全国初の乳児死亡率ゼロを達成し、その後も保健と医療の一体化を図るなど、地域包括医療の魁となりました。また、同時期に全国で初めて「地域医療」を冠した岩手地域医療研究会が発足し、その活動が現在の全国国保地域医療学会の礎となりました。来年度の全国学会は岩手県で開催することが決まり、学会発祥の地として盛大に開催できるよう準備を進めているところです。多くの皆さんの参加をお待ちしています。



クラーク 竹澤 千尋

貴重な時間を与えていただきました関係者の皆様に感謝とともに今後もチーム医療の一員として貢献できるように努めたいと思います。



病院の玄関に飾っておおりますので、皆さんぜひ当院へお越しの際はご覧ください。



口から食べる事は、ただ栄養補給をする為でなくその人らしく生きるために重要な要素です。高齢で、誤嚥リスクの高い患者の食事介助は困難で様々な工夫を必要とします。当院では、先日院内研修で「摂食嚥下時の有効なポジションングを身につける」をテーマに岩手医科大学認定看護師の柿沢良江さんを講師に迎え実践形式で講演を行いました。そこで、不良姿勢が与える影響を知り適切なポジションング法で安定・緊張緩和・各器官の動きを活発にし、誤嚥予防や食事量の増加に繋がる事を学びました。私たち、医療従事者にとって目指す目標は患者のQOLの向上です。日常を振り返り、スタッフ間で情報共有しながら食べる楽しみを患者に提供出来るように努力して行きたいと思います。

席主任看護師 佐々木 昇子

編集後記

町立西和賀さわうち病院 医療福祉連携室担当 高橋 豊宏
〒029-5612 岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-3-12
TEL:0197-85-3131 FAX:0197-85-3133(直通)
toyohiro1410@town.nishiwaga.lg.jp